

させました。落日の中の高貴な、寂しい微笑でした。私は、先生に気づかれない様に去りました。

終に、先生に次の歌を捧げ、御冥福を祈る次第です。

// 落日に淡く光れる新しき

学舎に老師ほゝえみて居り〃

了

(本学助教授)

古武士の風格

猪 俣 日 康

私が先生に解説し始めたころは、オッカナイ、ワンマン的映像がクローズ・アップされ、しかも、その内に秘める古武士的性格がのぞかれ、近よりがたい存在に思えました。

しかし、歳と共に、渋い燻しがかゝって、温容玉のごとく、という形容がピッタリする位いの老大人になられたが、流石に本性は争えないもので、ときに鋭い鋒鋒がチラリと頭をだしたり、ピリット辛味の利いた皮肉がこぼれ落ちたりする場合もあったが、たいていはほんの瞬間的な閃めきに止どまられました。

先生の人望、人徳その全人格から滲みでる感化力と説得力は高く評価され、校舎建設に際して、全国の同窓会員の要請にこたえて、病軀をひっさげながら、南は長崎、北は青森と東奔西走なされ、異常な熱意と粘りを示されました。

最後の、青森県下布教巡錫は、布教師として、華の生涯を發進された先生でありましたが、痼疾には克つことあわず、遂に布教師としての本望である有終の美を飾ることゝなられました。

五年前、或る教会創立十周年記念に先生と共に招かれ、身延線入山瀬に下車したところ、ハイヤーがなく当惑しておると「猪俣君、どうだ霊峰富士を眺めながら歩こう」と、飄然として、重いカバンをさげ、ドンドン歩いて行かれた、ところが、目的地まで約四キロの道程である。流石に先生には少々參られたようでありました。

私は、こゝに先生の人の知らざるところに、求道者としての片鱗の一面をうかがい見る機縁にせしめたことは、このうえもなき倅でありました。

その時の法要に「私は、法要の後で、説教をするから、君は身延山を代表して挨拶をしなさい」と、先生という方はこのように、つねに後輩の育成に余念がなく、教育者として厳格なるお方であられました。

一昨年、拙寺の本堂落成式にご臨席いただいた際、祝宴に愛用の錫のキャンビンと盃を添えて出しましたところ、「これで存むと、一段とうまい」と、申されましたので、後日おもいましたところ、「君から貰った錫のキャンビン二本位が定量だ——晩酌が楽しみだよ」と、お漏しになられては、感謝の意を表してくださいました。

想えば、先生の風格と人柄は、余人の知らざる、陰徳の蓄積によるところ真に大であられたと、今さらながら、先生のおそばに仕えさせていたゞいた倅は、寂しい思慕として、限りつきないものであります。

(厚徳寮々監兼図書館司書)